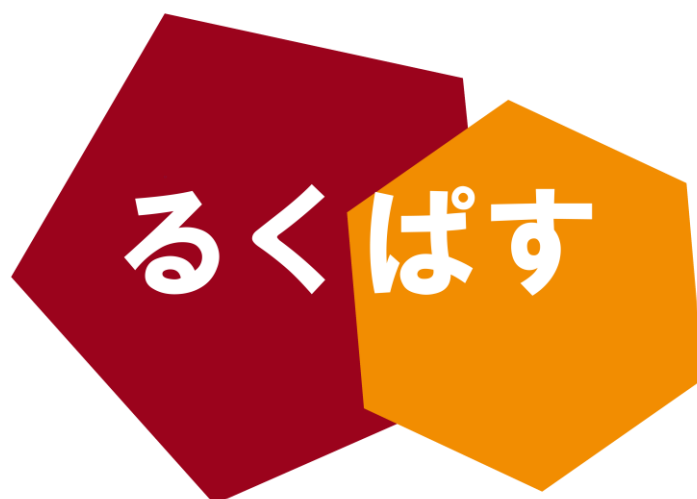




自己と他者



✧ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

更新日：2013/04/30

大阪大学附属外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | TA チーム

I. イントロダクション

＜ 「自己と他者」とは？

ミクロ社会学では、「私」と「あなた」のやり取り(=相互行為)によって社会は構成されている、という主張があります。しかし、その前提となっている私=自己、あなた=他者は、どのようにお互いに関係しあっているのか、ということを考えてみたことはありますか？自己と他者について少しでも関心をもったのなら、ここから始めてみましょう。

※「自己と他者」については、精神病学、心理学、哲学の分野でも研究がありますが、ここでは社会学を中心に紹介します。また、議論は数多くあるので、決して網羅的ではありません。

関係分野：社会学、コミュニケーション学、言語社会学、社会言語学、語用論、社会心理学、ロボット工学、会話分析、談話分析、教育現場、哲学（日常言語派） 等

II. はじめて学ぶ人へ

＜ 菅野仁（2003）『ジンメル・つながりの哲学』日本放送出版協会

20 世紀初頭、ドイツの社会学者ジンメルの相互行為論を、菅野が現代風に解釈しなおす。そこには、我々の普段の思い込みを覆す社会の仕組みがあった。他者とはなにか、その付き合い方がわからない方へ。【外 3F : 361. 5/691】

＜ 長谷正人，奥村隆〔編〕（2009）『コミュニケーションの社会学』 有斐閣

大学生向けに編集された「有斐閣アルマ」シリーズの一冊。主人公の悩みを有名社会学者が答えていく、というスタイルで進む本書は、面白くしかも本格的な内容。【総 : 361. 45/HAS】

＜ 井上俊，船津衛編（2005）『自己と他者の社会学』有斐閣

有斐閣アルマシリーズの一冊。社会学の中でも、自己と他者の言説を分担執筆したもの。様々な角度から論じられていて、興味のある部分だけ読むのも良い。【人 : 361. 4/INO】

＜ 浅野智彦（1996）「私という病」『社会学のすすめ』筑摩書房

＜ 浅野智彦（1997）「自己論に何ができるか」『社会学になにができるか』八千代出版

タイトルがキャッチー。自己論がどのような社会学的位置づけなのかを説明してくれる。

【上 総合 3F/4F 学習 : 361/OSA】【下 : 外 3F : 361/441】

III. 勉強を進めたい人へ

＜ ミード, G.H. (1913 他) 『社会的自我』 恒星社厚生閣 (訳: 船津衛・徳川直人編訳)

自我は社会的に構成される? 自分を他者との関係において「分けて」議論することを提案した有名な本。短いが濃厚な議論が魅力。【外 3F:361.1/222】

＜ シュッツ, アルフレッド (1982) 『社会的世界の意味構成』 木鐸社 (訳: 佐藤 嘉一)

ウェーバー社会学とフッサール現象学から現象学的社会学を提唱したアルフレッド・シュッツの代表作。「他者を理解すること」を時間・空間の観点から考察する。【外 3F:361.234/23】

＜ ゴッフマン, E (1974) 『行為と演技—日常生活における自己呈示』 誠信書房

この世は舞台。ドラマトウルギーと呼ばれる概念をつかって、人の自己呈示の方法を観察・分析・報告した一冊。【外書庫 | 361.253/37】

＜ アラン, G (1993) 『友情の社会学』 世界思想社 (訳: 中村祥一, 細辻恵子)

これまであまり取り上げられることのなかった「友情」に対する社会学の研究をまとめた一冊。端的な説明とともに、友情研究の可能性をも語る一冊。【外 3F:361.41/126】

＜ 奥村隆 (1998) 『他者という技法: コミュニケーションの社会学』 日本評論社

人は、社会は、自分を殺す苦しみと、それによってもたらされる平穏との間でジレンマを抱えている。その中で人々が行う「他者という技法」を、出来るだけニュートラルな立場で描写するという立場で書かれている。【生: 361.3/OKU】

＜ 数土直紀 (2009) 『理解できない他者と理解されない自己: 寛容の社会理論』 勁草書房

他者を理解することは可能か。もしそれが無理なら、どうすればいいのか…。「囚人のジレンマ」などを通して、今後の人間の理解のあり方を考える一冊。【外 3F:361.5/691】

IV. 社会学以外も読んでみたい人へ

＜ 永井 均 (1996) 『<子ども>のための哲学』 講談社 (新書)

＜ ——— (2010) 『「私」の存在の比類なさ』 講談社 (原本は 1998 年勁草書房から出版)

吹田は人間科学部で集中講義をしたことがあるらしい、超越論的自己論者の永井均の著作。上は新書で読みやすく、中学生ぐらいを想定しているそうなので、社会学での認識論的自己論とは別の視野を手に入れるためにも一読するべきだ。【上: 総合 3/4F 学習: 104/NAG】【下: 外 3F 小型本: 081/144/2000】

＜ パーフィット, デレク (1984) 『理由と人格: 非人格性の倫理へ』 勁草書房 (森村進訳)

1984 年 “Reasons and Persons” の邦訳。特に第 4 章の思考実験が面白い。倫理学の書ではあるが、自己を構成するものがなんであるのかについて別の視点を与えてくれる。【外 3F:151/58】

【図書/論文の検索】

論文や Pathfinder に掲載されている図書等を検索するには

【図書・ジャーナル】

- ・外国学図書館各階にある検索端末を利用するか、るくす内の PC を利用して検索してください。
- ・その際は、書名や出版年、出版社、著者名、ISBN、ISSN 等を OPAC 検索に打ち込んでください。

【電子ジャーナル】

- ・電子ジャーナルの種別によって学内・学外からのアクセスが異なりますので、注意してください。
- ・多くの場合は「附属図書館 HP」→「電子ジャーナル」で検索できます。見つからない場合はメインカウンター／TA カウンターまでお問い合わせください。

【パスファインダーの凡例】

◀ 図書名はすべて以下の順に表記されています。（主に論文の参考文献に使われている書式です。）
著者名（出版年）『本の名前』 出版社名， 翻訳者名（あれば）

◀ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と請求記号を記しました。

総図→総合図書館

生→生命科学図書館

理工→理工学図書館

外→外国学図書館

電→電子ジャーナル

Web→Web ページ

◀ 外国学図書館を中心としていますので、これ以外の場所でも貸し出し可能な場合があります。
予約や取り寄せ等は、OPAC を参照するか、メインカウンター/TA デスクまでご相談ください。

◀ また、検索や購入のために

ISBN：各図書固有の識別番号。検索や購入に。

ISSN：各雑誌固有の識別番号。検索に。

を記してある場合もあります。